

平成27年度 新発田・北蒲体育部 活動報告

部長 阿部 義弘

1 研究主題

「学習指導要領の趣旨を踏まえた体育学習の在り方について」

2 研究主題設定の意図

学習指導要領の中学年「ボール運動」領域のゴール型にはラインサッカーやミニサッカーが例示してある。サッカーは主に下肢を使ってボールを扱う種目なので技能の習得が難しい。したがって、運動の特性である「2つのチームが入り交じってボールを奪い合い、パスやドリブルなどで相手の守りをおかしてボールを近くまで運び、シュートして点を取るということ」を児童に十分味わわせることも困難である。そこで、チームで協力し、シュートチャンスを作り出す動きを考えながらゲームをする楽しさを味わわせたいという願いから、場や人数、ルール等を工夫し、授業研究を通して検証した。

3 事業の実際

○第1回小教研専門部会「活動計画立案」 4月9日（木） 加治川小学校

○第2回小教研専門部会「実技講習」 6月8日（月） 猿橋小学校

講師 大石 康範 様（新発田市立御免町小学校 教諭）

内容 「ゴール型ゲーム～サッカー～」

○第3回小教研専門部会「授業研究」 11月2日（月） 猿橋小学校

単元名 「うごいて つないで きめようゴール！」

4年 ゴール型ゲーム～サッカー～

授業者 江端 洋平（猿橋小学校 教諭）

指導者 阿部 潤 様

（新潟市立総合教育センター 指導主事）

<概略>

研究授業では、4年生の児童が、チームで協力し、シュートチャンスを作り出す動きを考えながらゲームをすることをねらいとしていた。ねらい達成のために主に次の手立てを講じた。

①3～4人の等質チームを作ったり、兄弟チームを設定したりしてグループ学習を行う。

②ハードルに網をつけた簡易ゴールを複数用意し、攻撃パターンを増やしたり、シュートチャンスを増やしたりする。

ゴールが複数あることで、オープンスペースを見つけてパスを多数行う姿や、なかなかシュートができなかった児童が何度もシュートを行う姿が見られるようになった。他にも、オープンスペースに目がいくようになった結果、チーム内や兄弟チーム内でアドバイスし合ったり、励まし合ったりする姿が増え、作戦の幅が広がってコートを大きく使ったゲームを展開するようになった。

指導者からは、学習指導要領の趣旨を踏まえたサッカーの指導についてだけでなく、作戦や動きの蓄積の大切さや、課題に気付かせる言葉がけ等についてもご指導いただいた。



4 成果と課題

「サッカー」という技能習得の難しいゴール型の運動を、中学年の体育授業でどのように扱うのかについて、実技講習、授業研究を通して具体的に学ぶことができた。授業研究で明らかになった課題をもとに、各学校でさらに実践を重ね、サッカーおよびゴール型の運動・ゲームの充実につなげていく。